

平成 2 9 年度第 4 回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成 2 9 年 6 月 7 日（水）	午前 9 時 3 0 分
場	所	八王子市役所 議会棟 4 階	第 3 ・ 第 4 委員会室

第4回定例会議事日程

- 1 日 時 平成29年6月7日(水)午前9時30分
- 2 場 所 八王子市役所 議会棟4階 第3・第4委員会室
- 3 会議に付すべき事件
 - 第1 第14号議案 八王子市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則設定について
 - 第2 第15号議案 八王子市教育委員会事案決定規程の一部を改正する訓令設定について
- 4 報告事項
 - ・平成30年度八王子市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書採択における教科用図書選定資料作成委員会の設置について (指導課)
 - ・1日宇宙記者「みちびき2号機」の実施報告について (指導課)

その他報告

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理人	星 山 麻 木
委 員	村 松 直 和
委 員	柴 田 彩千子
委 員	大 橋 明

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	小 俣 勇 人
学校複合施設整備課長	内 野 茂 樹

施設管理課長	松土和広
保健給食課長	野田明美
教育支援課長	穴井由美子
指導課長	中村東洋治
教職員課長	廣瀬和宏
統括指導主事	佐藤晴美
統括指導主事	野村洋介
生涯学習スポーツ部長兼 国際スポーツ大会推進室長	瀬尾和子
生涯学習政策課長	平塚裕之
スポーツ振興課長	坂口崇文
スポーツ施設管理課長	佐藤晴久
学習支援課長	新井雅人
文化財課長	中野みどり
こども科学館長	叶清
国際スポーツ大会推進室主幹	宮木高一
図書館部長	石黒みどり
中央図書館長	太田浩市
生涯学習センター図書館長	新堀信晃
南大沢図書館長	安達和之
川口図書館長	福田秀之
指導課指導主事	上野和広
指導課指導主事	佐生秀之
保健給食課主査	安齊祥江
指導課主査	和田嘉代
スポーツ振興課主査	伊藤雅佳
教育総務課主査	堀川悟
教育総務課主事	廣瀬桃子
教育総務課嘱託員	古瀬村温美

【午前9時30分開会】

安間教育長 大変お待たせをいたしました。本日の出席は5名でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより、平成29年度第4回定例会を開会いたします。

本市では、地球温暖化対策、省資源対策の一環として、節電等に取り組んでおります。本定例会においても照明の一部消灯や職員のクールビズを実施いたしておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

本日の議事録署名員の指名をいたします。本日の議事録署名員は、星山麻木委員を指名いたします。よろしくをお願いいたします。

本日の議事でございますが、第14号議案及び第15号議案については、いまだ意思形成過程のため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により、非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

安間教育長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

報告事項です。指導課から、2件報告をお願いします。

佐藤統括指導主事 平成30年度八王子市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書採択における教科用図書選定資料作成委員会の設置について報告いたします。

本件は、前回の定例会で議題に供しました平成30年度八王子市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書採択要項に基づき、教育長決裁にて決定したものです。

詳細については、担当主査の和田より報告いたします。

和田指導課主査 それでは、私から、資料に添って御説明いたします。

本要項は、平成30年度から八王子市立小・中学校の特別支援学級で使用する教科書の採択にあたり、対象となる教科書について調査・研究を行うための組織として教科用図書選定資料作成委員会を設置するもので、その構成及び任務等について定めたものでございます。

2の(1)資料作成委員会の構成につきましては、特別支援学級設置校の校長、

副校長、担当教員、専門性を有する者、保護者代表から成る組織となっております。

任務につきましては、次に御説明します資料作成委員会の下部組織である調査部会及び各小・中学校からの調査結果、教科書センターにおけるアンケートを参考に選定資料の検討を行い、その結果を教育委員会に報告いたします。教育委員会は、この資料作成委員会の報告書を参考にしながら採択していただくことになっております。

次に、(2)調査部会についてでございます。

小学校・中学校の部会ごとに、校長、副校長、担当教員から成る構成となっております。資格につきましては、教職5年以上、特別支援学級担当教員3年以上を経験した者で、特別支援教育における指導についての高い専門性と識見を有する者、または校長がその専門性を踏まえ推薦する者としております。勤務につきましては、小学校・中学校の校種ごとに、全ての教科書を上部組織であります資料作成委員会からの求めに応じて調査・研究し、報告いたします。

続きまして、(3)その他でございます。

採択を、公正かつ適正に実施するため、資料にありますアからカの6つの項目で委員になれない者を定めております。

最後に、今後の日程でございます。

この組織を立ち上げて、6月上旬から7月上旬にかけて、資料作成委員会及び調査部会を開催し、調査・研究を行ってまいります。そして、8月2日の教育委員会定例会にて採択していただく予定となっております。大変短い期間の日程となっておりますが、どうぞよろしく願いいたします。

説明は、以上でございます。

安間教育長　　ただいま、指導課からの報告が終わりました。

本件について、御質疑はございませんか。

大橋委員　　資料最後の裏面、教科用図書採択に係る事務の流れのところ、教科用図書選定資料作成委員会と、それから特別支援学級設置校の調査・研究と、この間のところが、矢印が両方、双方向出ています。これは双方向性を持たせるという意味だと思うのですが、ここについて詳しくお教えいただければと思います。

和田指導課主査　　教科用図書選定資料作成委員会は、校種別調査部会の部員に調査依

頼をしますが、それとはまた別に、資料作成委員会は、一番下の中央にあります各学校の特別支援学級設置校の調査・研究を依頼しまして、その報告は資料作成委員会に報告することとしています。その資料作成委員会は、各学校からの報告を、下の校種別調査部会に情報提供をして、それもあわせて調査部会のほうで資料を作成していただくという流れになっております。

大橋委員　それでは確認なのですが、そうすると、特別支援学級に在籍する一人ひとりの個性に富んだ子どもたちがいて、その一人ひとりの子どもに応じた教科書を採択するために、このような仕組みにしたというふうに理解してよろしいでしょうか。

和田指導課主査　委員のおっしゃるとおり、そのとおりでございます。

安間教育長　要するに、二重になっているわけですね。各学校でも調査するし、一回、資料作成委員会に上がって校種別調査部会におろすけれども、そこにも担当教員が全校分いて研究するのだからという。

和田指導課主査　そのとおりでございます。各学校からの調査も求め、それもあわせて資料作成委員会として最終的には報告資料をまとめていくという流れになっております。

安間教育長　ほかに、委員の方から何か。

星山委員　いろいろ心配なところがあるのですけれども、随分改善していただいて、一番私が難しいだろうなと思うのは、一人ひとりの子どもさんに合った教科書が違っているので、そのところをどういうふうに、この流れの中で保障していくかなという点です。専門性を有する人という文言が出てきて、そこはいいなと思ったのですが、2点ほど、心配なところがあります。御質問なのですが、作成委員会の中に保護者の代表が入るというところはいいと思うのです。しかしながら、いろいろな保護者の方いらっしゃいますし、必ずしも特別支援学級の図書の採択に関する知識や経験をお持ちかどうかというのはわかりません。その辺のところでも考慮すべき点など考えてらっしゃることがありましたら、伺いたいと思います。

それから、1枚目のところですが、2の報告内容の(2)のイのところの資格で、教職5年以上、特別支援学級担当教員3年以上と書いてあるのですが、その中で、特別支援って免許があるのですけれども、特別支援学校の教員免許と一応なっているのですけれども、せっかく免許なので、こういう免許を求めるというこ

とは、話に出なかったかなというところが少し出まして、経験年数を積んでいる方が必ずしも専門性が高いとも限らない気がしますし、逆に、免許を持っているからどうかという話もありますが、でも、1つの専門性を有するという資格ではあるかなと思いますので、その辺、検討なされたかどうかだけ伺えたらと思います。

以上の2点です。

佐藤統括指導主事　　まず1点目の保護者の選出の考慮につきましては、今回の特別支援学級の使用教科書の採択に当たりまして、どういうことをこちらが考えているかということをお伝えいたしまして、そこでPTA連合会のほうで選出をしていただいているところでございます。

2点目の年数に限らないというところでございますけれども、やはり、委員のお話にあるように、では、教職は5年以上、それから特別支援学級担任が3年以上だったら専門性が高いかといったら、本来はそうあってほしいのですが、現状はそうではない部分もございますので、あわせて、校長先生のほうから、その専門性を踏まえて推薦する者ということで、年数に限らないところで、やはりふさわしい方を選出していただいているところでございます。

山下学校教育部指導担当部長　　今、特別支援学級の免許のお話でしたが、東京都は、配置、採用の段階において、免許を持っている者を特別支援学級にという形ではなく、それを踏まえて通常学級と特別支援学級を明確に免許で切り分けてはいません。こちらの見立てでは、特別支援学級で活躍されている専門性の高い方の中にも、免許を持っていらっしゃる方もたくさんいらっしゃるという現状はございます。今、免許の取得促進の取り組みをさせていただいておりますので、今後、制度的に整ってまいりましたら、ある程度、条件に加えていくというようなことも将来的には可能かなというふうには考えております。

安間教育長　　いかがでしょう。

星山委員　　意見になってしまいますが、資格というのは1つの資格には過ぎないのですけれども、市を挙げて、これは1つの教科書を採択するというプロセスではありますが、せつくなので、さまざまな立場の方たちが、子どもたち一人ひとりにふさわしい適切な教科書を選ぶというプロセスの中で、私たちも、共に考えたり悩んだり、学び合えたらいいな、その機会にできたらいいのではないかなと思っており

ますので、ぜひ保護者の代表の方、あるいは採択にかかわってくださる多くの先生方、専門家の方たちも、こういう役割で、もし、今足りないことがあっても、自分で学びながら、こういう役割を負ってやっていくのだという使命と申しますか、そういうところをよく伝えていただきたいと思います。せっかく丁寧に採択するというプロセスを考えていただいたわけですので、いい方向につながっていったらいいなというふうに感じました。

すみません、質問が意見になってしまいました。以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

ほかに御質疑等はございますか。よろしゅうございますか。

それでは、本件を報告として承らせていただきます。

安間教育長 続いて、指導課から、もう1件報告、お願いします。

野村統括指導主事 6月1日に行われました、1日宇宙記者「みちびき2号機」について、佐生指導主事より報告いたします。

佐生指導課指導主事 1日宇宙記者「みちびき2号機」について報告いたします。

定例会報告事項資料をご覧ください。

本市と協定を結んでいる宇宙航空研究開発機構「JAXA」より、H-Aロケット34号機による準天頂衛星「みちびき2号機」打ち上げの機会を捉え、市内中学生が宇宙記者として打ち上げの現場の様子を自校の生徒に報告するという活動が6月1日木曜日に行われました。

加住小中学校と松木中学校の代表生徒4名が、1日宇宙記者として種子島宇宙センターからリアルタイムで、その様子をレポートいたしました。

前日からの豪雨の影響があり、打ち上げが行われるか心配されましたが、当日は見事に晴れ渡り、打ち上げも無事成功。その様子をリアルタイムで見ていた各中学校の会場では、生徒たちの拍手と歓声が沸き起こりました。現地から様子を伝えた1日宇宙記者からは、「ロケットが打ち上がった瞬間、その打ち上げに携わったさまざまな方が、自分のことのように喜んでいる姿がとても印象的でした。」また、「みちびきは、日本のGPS機能を高める狙いがある。日本の人々の生活を豊かにするために、こうして努力している人の姿を感じることができて嬉しい」など、打

ち上げの現場にいるからこそその感想を聞くことができました。また、各校において、1日宇宙記者からのレポートを聞いた生徒からは、「勉強は苦手だけど、宇宙に関する勉強には興味がわきました。今日は、感動で鳥肌が立ちました。」また、「この打ち上げを通して、よりよい社会にしていこうという、開発に関わった方々の思いを感じることができました。宇宙科学への興味がわきました。私も社会の役に立つ人になりたいです」など、1日宇宙記者からのレポートを自分の学びに変え、学習への意欲につなげる感想を聞くことができました。

子どもたちは、無限の可能性を秘めています。さまざまな体験を行うことで可能性を高めていくことができると思います。今回の体験から、次の100年のかがやきの中で、宇宙飛行士が本市から出てくると嬉しいです。今後も、子どもたちの可能性を高めることができる機会を増やしていきたいと考えています。

今後の予定といたしましては、各校においては、1日宇宙記者による学びの報告会が行われます。また、市長、教育長を表敬訪問することを、現在検討しているところでございます。

報告は、以上です。

安間教育長　　ただいま、指導課からの報告が終わりました。

本件について、御質疑はございませんか。

村松委員　　このJAXAの方にお聞きしますと、種子島から宇宙ロケットというのは、思った以上に結構発射されているみたいなのですね。この取り組みというのは、前回、報告でお聞きしたのですけれども、この取り組みは次回の予定はあるのですか。

上野指導課指導主事　　こちらの活動につきましては、今回で3回目となっております。1回目、2回目は連携協定を結んでいる相模原市で実施しまして、今回の3回目は八王子市ということで行っております。4回目以降も計画はしているのですが、JAXAとしましては、市を限定するのではなく、できるだけ多くの自治体と関わっていききたいところもありますので、今後は公募にするということも考えているようです。ですので、今後も、この活動は継続する予定ではあります。

村松委員　　ということは、必ずしも八王子に来るということではないのですね。

上野指導課指導主事　　こちらからも、とても素晴らしい活動でしたので、ぜひ次回以降も八王子でということは何回もプッシュをしたのですけれども、回答は、機会が

あればということと、あと公募という形も考えておりますのでという御回答だったので、そういう形であれば、積極的に応募して、子どもたちに貴重な経験をさせていきたいなどは考えております。

村松委員 機会を得られるように、交渉も頑張っていたきたい。今回の、この取り組みって、小P連も中P連の方も結構見ていました。このような経験を通して宇宙とかかわりを持つことは、理数系にもつながっていくので、とてもいい取り組みだと思います。教育委員会も教育委員も協力しながら、今後も実施していただけるように、機会を設けるように頑張ってください。

以上です。

安間教育長 ほかにございましょうか。

柴田委員 加住小中学校では保護者や地域の方が約300名、松木中学校では約500名集まれたということですが、今回周知の方法は、どのようにされたのですか。

佐生指導課指導主事 各校からはお便り等で保護者への通知がなされたということでございます。これは生徒も合わせての人数でございます。よろしくお願い致します。

柴田委員 ありがとうございます。地域の方には、どのように周知がなされたのでしょうか。

佐生指導課指導主事 学運協、PTAを通じて、地域のほうに周知したというふうに聞いております。

柴田委員 ありがとうございます。

安間教育長 ほかにございましょうか。

星山委員 とってもすばらしい体験で、いいなと思いました。

6月1日木曜日の、この時間というのは、学校にとってどういう時間枠でなされたのですか。

佐生指導課指導主事 理科の枠として時間をとりました。

星山委員 枠でなされたのですね。とても感動的なので、2校だけではなくて、もっといろいろな学校が、この枠に合わせて一緒に感動できたらいいかなと思ったので、伺いました。

また、今後も、オリンピックなどこういう機会はたくさんあるかもしれません。画像を見ながら、保護者の方と地域の方と子どもたちが一緒にある瞬間を感動する

って、すごく意味があると思うのです。ただ、教室で見ているのと違って。

以前お話した研修の話と絡んでしまうのですけれども、ICTって、いろいろな使い方があると思うのですけれども、今回、種子島とインターネットで学校2校をつないでいて、同時に臨場感あふれる感動体験ができたのだと思うのですけれども、今後、こういう体験って、教育ですごく重要ではないかと思うのです。インフラを整えなければいけないということももちろんあるのですけれども、こういう機会に得たノウハウというのですかね、そういうのを、また教育活動に活用していただけたら、すごくいいかなと思いますし、研修もそうで、とにかく八王子って広いので、限られた地域の子どもたちや先生方としか共有できないのを、今の技術を使えば、いろいろな形で一緒に学べるのではないかなと前々から感じているので、ぜひここで得たノウハウといいますか、経験を、また違うものにも活用していただけるように蓄積していただけたらありがたいなというふうに感じました。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

上野指導課指導主事 今のところで、少し補足させていただきます。

1日宇宙記者の活動なのですけれども、子どもたちが伺う前の週ですね、加住中学校と松木中学校におきまして、事前学習というのを行っています。ここで、理科の授業を通して、宇宙のことやロケットの仕組みなどの勉強を行っています。当日に関しても、理科に関する要素は多くあるのですが、子どもたちが多くかかわる行事的な要素もありますので、基本的には行事で実施しているというふうに考えていただいてもよろしいかと思えます。

また、今後、学校で報告会がありますので、また、その様子もわかれば、お伝えできればというふうに考えております。

安間教育長 ありがとうございます。

今、御発言になった上野指導主事は、実際に種子島に行かれて、体験をされてきたわけで、そういった意味での補足はありませんか。実際に行った感覚を。

上野指導課指導主事 今回、加住中学校の生徒さん2名、松木中学校の生徒2名と、それぞれの教員2名と、計6名と、私で伺わせていただきました。私も理科の教員ということで、とても興味があって行かせていただいたのですが、何より子どもた

ちですね、期待を胸に伺ったところでございます。

伺う当初、子どもたちと話をしたところ、ロケットの打ち上げは楽しみだとか、宇宙ってどういうところなのだろうという、そういう気持ちで伺ったのですけれども、この三日間の活動を通して、JAXAの方々ですとか、あと地域の方々、旅館の方々とお話をする中で、宇宙のことは大切なだけでなく、それにかかわる人の大切さ、ロケットを打ち上げる思いというのが身にしみて理解できたということをお話していました。この経験を、子どもたち自身は宇宙教育にかかわる職業につくかどうかわからないのだけれども、その周りの人の大切さというところを理解した上で、今後の将来を決めていきたいというところをお話ししていました。また、この貴重な経験を、ぜひ学校の仲間に伝えていきたいと言っていたところは、とても印象的でした。

あと、私自身の感想としては、とても貴重な経験をさせていただいて、今まで聞いたことのないような音とか振動を体感することができたので、先ほど村松委員からもお話がありましたが、この経験を一人でも多くの方々にしていただきたいとも考えておりますので、また、今後も教育委員会としてもJAXAと連携をして行っていきたいなというふう実感しております。

以上です。

安間教育長 急な御指名、申し訳ございませんでした。

今のは、多分、星山委員のおっしゃられた、直接体験のほうなのでしょうけれども、私自身は、この日の朝、加住小中学校に行って、子どもたち、保護者、地域の方々と一緒に、この裏面にある、この画面を見ていたわけなのです。その印象、これは間接体験になるわけですがけれども、先ほど星山委員がおっしゃったように、いわゆるつくられた、きれいに整理された映像ではない。映画かテレビなどで、こういう打ち上げを放送するときは、角度を変えたり、色もきれいで、いかにも迫力あるようなアングルでやるのですけれども、そうではなくて固定カメラですから、ある意味、味もそっけもないわけですよ。ところが、それがいいんだな。実際に風圧なんていうのは来ないわけですよ、種子島からでは来ないのだけれども、画面が揺れるのですよ、がががががと。そうすると、見ている子どもたちが、要するに、つくられた映像ではないなというのを、物すごく感じとれる。そのとき感じたこと

を、その場で自分の友達がレポートしながら向こうで照れていると、こちらで笑っちゃったりしながら、そういうやりとりができる。だから、これを研修に応用するという星山先生のアイデアというのは、物すごくいいことだろうなど。決して、上野指導主事のように行かなければわからない、ではなくて、逆に、こういうような間接的な体験であっても、感じとれるものは感じとれるし、話し合いに参加することができるし、学ぶことはできるということは、私、見ていて痛感をいたしましたので、これはこれとして、星山先生の研修に生かすという発想は、どこかでちゃんと実現をいたしましょう。

よろしゅうございますか。

それでは、報告事項は終わりということで承らせていただきます。

安間教育長　ほかに何か報告する事項はございますか。

廣瀬学校教育部長　保健給食課、スポーツ振興課、中央図書館より報告ございます。

安間教育長　それでは、保健給食課から報告をお願いいたします。

野田保健給食課長　それでは、5月21日、日曜日に、エスフォルタアリーナにて行われました、健康フェスタ・食育フェスタに学校給食が出展いたしましたので、当日の様子など、詳細につきまして安齊主査より報告をさせていただきます。

安齊保健給食課主査　資料はございません。口頭での御報告となります。当日、市民に向けて配布させていただいた資料をお配りしておりますので、後ほど御紹介させていただきます。

食育フェスタは、八王子市の食育推進計画に基づいて、地域の団体、事業者やNPO、行政等の食育活動の紹介を行い、イベントへの参加を通じて市民がさらに食育への関心や理解を深めることを目的として、健康部健康政策課が開催しております。

今年は40団体の出展があり、昨年と同様、1万人を超える来場がありました。

学校給食は、初開催の平成23年度より、毎年出展をしており、学校栄養士や給食調理員とともに参加をしております。給食の魅力を発信しながら、子どもから大人まで誰でも参加できる体験イベントを設け、食に親しむ機会としております。

出展内容について御説明させていただきます。

1つ目は、食育パネル展示です。今年は、食材が届いてから給食ができるまでの様子を写真でつづったパネル展示や、また、小・中学校で実施している食育の取り組みを紹介する姉妹都市献立、八王子産の新米を食べる日などのパネルを展示いたしました。

2つ目に、体験型イベントとして、3つのブースを設けております。「目指せ！お箸名人」は、子どもも大人も夢中になってチャレンジしていただいている体験です。本日は、お手元にお箸検定の認定カードを配付しております。ご覧ください。体験する内容ですけれども、制限時間1分間で箸を正しく持って皿から皿へ大豆を移動させるゲームです。カードの裏をご覧ください。検定は、箸の持ち方と大豆を運んだ数で級を認定しております。このお箸名人は、全小学校でも毎年取り組んでいる食育です。卒業までに正しい箸使いやマナーを身につけることを目指しています。保護者の皆様からのアンケートでは、この取り組みがきっかけで、家族そろって箸使いを見直すいい機会になりましたなどのお声をいただいているところです。

次のイベントは、地場野菜ストラックアウトです。野菜の絵が貼ってある的にボールを当てるゲームです。こちらも、順番待ちの列ができる人気のコーナーとなっております。お手元にあるA4横判のカラー資料、八王子のおいしい地場農産物をご覧ください。ゲームを楽しんでいただいた後に、こちらのお土産用プリントを渡して説明をし、八王子のおいしい野菜について知るきっかけとしております。

3つ目の、八王子食育かるたです。食育かるたは、読み上げる読み句自体が身につけさせたい力につながるかるたで、市が作成したものです。今年は、かるた遊びをしながら、読み句に関するクイズを出し、遊びながら食の大切さに触れました。

最後に、参加していただいた市民の皆様へ、学校給食レシピと姉妹都市献立の取り組みについて紹介したリーフレットを配布いたしました。お手元の、麻ひもでつづってある学校給食レシピをご覧ください。こちら、小学校69校分のレシピを掲載しております。表紙を1枚めくっていただくと、目次に学校ごとのメニューが一覧になっております。リクエストの多い人気メニューですとか、家庭でもぜひ取り入れていただきたいレシピを掲載しております。

もう1つ、姉妹都市と書かれたリーフレットをご覧ください。平成29年2月から5月まで、4カ月にわたって実施いたしました姉妹都市献立4都市分の郷土料理

のレシピと、食育の取り組みについて紹介した内容となっております。

今後も、このような機会に学校給食での取り組みを広く市民に発信し、食の大切さに触れる機会としていきたいと思っております。

報告は、以上になります。

安間教育長 ありがとうございました。

保健給食課からの報告が終わりました。

本件について、御質疑はございませんか。

村松委員 私も参加させていただきました。大変盛況で、よかったです。去年は富士森で開催されましたが、今年はエスフォルタアリーナ八王子でということですが、来場者数の増減は、昨年と比べてどんな感じなのですかね。

安齊保健給食課主査 健康政策課に確認いたしましたら、昨年度も1万を超える来場者があったということで、今年度も同様の来場者数があったということです。

村松委員 たくさんの方々が参加して、または法人関係の方も参加していただいて、本当に盛況でしたが、午後から、お昼御飯を食べに行き、そのままお帰りになるという来場者の方が多くて、午後の最後のほうは、かなりすいている状況なのですが、午後も何か来ていただけるような取り組みとか、何かお考えになりますか。

安齊保健給食課主査 昨年度から、健康フェスタと食育フェスタの同時開催となっております。八王子市の健康づくり推進協議会と食育フェスタ実行委員会と一緒に合同で役員会議を開いているのですが、その中でも、そういった午後の来場者を見込むイベントというのは話題になっておりますので、今後、そういった会議で、来年度に向けて検討していけたらと思っております。

村松委員 エスフォルタアリーナ八王子は室内なので、来場者の方も来やすいと思いますので、午後からもイベント的なことを設け、たくさん来ていただけるように、考えていただければと思います。

私も、今年はお箸名人が3級でしたので、来年は1級を目指したいと思います。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

ほかにもございますか。よろしゅうございますか。

それでは、報告承らせていただきます。

安間教育長　　続きまして、スポーツ振興課から報告お願いいたします。

坂口スポーツ振興課長　　それでは、食育フェスタと同時期、5月21日に開催いたしました第30回ヘルシーウォーキングにつきまして、御報告いたします。

詳細につきましては、伊藤主査から御説明いたします。

伊藤スポーツ振興課主査　　それでは、私から、第30回ヘルシーウォーキングの実施状況について御報告いたします。こちらも、先ほど同様、口頭報告とさせていただきますので、資料はございません。御了承ください。

ヘルシーウォーキングは、市民健康の日のイベントとして、毎年5月の第3日曜日に開催しております。今年は、平成29年5月21日に、南大沢駅前の南大沢中郷公園をスタートし、上百合運動公園、絹の道資料館から絹の道、みなみ野の丘公園を經由しまして湯殿川沿いを歩き、狭間町にありますエスフォルタアリーナまでの総距離13キロのコースで行いました。

当日の参加者は703名、そのうち、約500名の方がゴールまで完歩されております。当日は、晴天に恵まれましたが、気温が上がり過ぎ、熱中症の症状を発症された方が3名ほど確認されておりますが、全員軽症で、すぐに回復されました。

また、ゴール後にアンケート調査を行ったところ、距離については過半数の方が、「今まででよい」と回答しており、コースについては、滝山城址を代表に、市北部を希望される方が多いという結果が出ております。この結果につきましては、来年度以降のヘルシーウォーキングの参考といたします。

以上で説明を終わります。

安間教育長　　ありがとうございました。

スポーツ振興課からの報告が終わりました。

本件について、御質疑はございませんか。よろしゅうございますか。

実施された皆さん、本当にお疲れさまでございました。

安間教育長　　続きまして、中央図書館から報告をお願いいたします。

太田中央図書館長　　それでは、私から、去る5月27日土曜日に、中央図書館で開催

されました春の朗読会について御報告をさせていただきます。資料はございません。

この朗読会は、平成15年から実施しているもので、春と秋に分けて開催し、今回で28回目、これまで朗読された作品数は130作品に上ります。朗読を行いますのは、通常は視覚に障害をお持ちの利用者に対しまして対面朗読などを行っているボランティアの会、ともしびという団体の皆さんで、今回は、芥川龍之介の杜子春や藤沢周平の踊る手などのほか4作品を朗読し、73名の方の御来場をいただきました。

御来場者のアンケートからは、昔読んだことのある作品でも朗読を通して改めて聞くと奥深さを感じたであるとか、よい声の人ばかりで、引き込まれて感動したなどの御好評をいただいたところでございます。

次回の開催は秋となりますけれども、引き続き耳で楽しむ読書、読書へのきっかけづくりとしていただけるように、継続的に実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

安間教育長 ありがとうございます。

中央図書館からの報告が終わりました。

本件について、御質疑はございませんか。こちらも、よろしゅうございますか。

各課で大変いい取り組みをして、御努力いただいているので、ぜひ、いろいろな場面で、市民の方々に、こういうことをやっているよということを周知すると、必ず我々も努めてまいりましょう。

以上で、公開の審議は終わりますが、委員の方から、何かございますか。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 ないようであります。

安間教育長 それでは、ここで暫時休憩にいたします。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退席をお願いいたします。

再開は10時20分にいたしたいと思います。

〔午前10時10分休憩〕